

豊田PCB廃棄物処理事業の状況報告について

1 豊田PCB廃棄物処理事業の処理実績

(1) 豊田PCB廃棄物処理施設での処理実績

(表-1) PCB廃棄物の処理量 (投入ベース)

平成28年3月末現在

	(注1) トランス類 (台)				(注2) コンデンサ類 (台)				(注3) 廃PCB (本)	純PCB 処理量 (トン)
	大型	小型	車載	合計	普通	特殊	連結	合計		
試運転時 H17年6～8月	1	5	8	14	447	0	0	447	33	5.0
操業時 (H17年9月～)										
H17年度合計	10	39	0	49	991	0	0	991	0	26.8
H18年度合計	17	50	3	70	1,359	0	1	1,360	1	63.7
H19年度合計	23	156	21	200	2,379	0	82	2,461	30	115.8
H20年度合計	36	235	24	295	3,762	0	171	3,933	(※1) 15	186.4
H21年度合計	40	224	26	290	4,738	0	103	4,841	(※1) 46	199.3
H22年度合計	34	131	22	187	3,772	0	30	3,802	60	162.9
H23年度合計	31	84	21	136	3,923	0	0	3,923	36	144.5
H24年度合計	41	137	34	212	5,456	0	27	5,483	95	217.9
H25年度合計	43	119	50	212	6,110	98	8	6,216	(※1) 196	207.5
H26年度合計	66	68	60	194	5,417	1,040	11	6,468	112	214.3
H27年4月	3	0	6	9	466	109	0	575	2	17.9
H27年5月	0	0	2	2	22	7	0	29	0	1.9
H27年6月	4	0	4	8	554	115	0	669	2	25.4
H27年7月	3	0	6	9	597	77	0	674	3	21.6
H27年8月	2	0	6	8	501	138	16	655	2	23.3
H27年9月	2	0	8	10	461	82	0	543	0	15.9
H27年10月	2	1	6	9	560	171	0	731	1	19.1
H27年11月	2	0	4	6	905	128	0	1,033	3	17.8
H27年12月	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0.0
H28年1月	3	4	6	13	395	389	0	784	9	12.4
H28年2月	3	7	6	16	395	166	0	561	5	18.9
H28年3月	3	6	6	15	534	149	0	683	0	16.5
H27年度合計	27	18	60	105	5,390	1,532	16	6,938	27	190.6
操業期間合計	368	1,261	321	1,950	43,297	2,670	449	46,416	618	1,730
全処理量	369	1,266	329	1,964	43,744	2,670	449	46,863	651	1,735

(注1) : トランス類とは、変圧器、変流器、リアクトル等を含む。大型トランスとは重量が1.62tを超えるもの又は小型トランス解体ラインでは処理できないもの。

(注2) : 普通コンデンサはサージアブソーバーを含む。連結コンデンサは小型コンデンサ2～18個がセットになったもの。(セット数)

(注3) : 廃PCBとはドラム缶やペール缶入りの廃PCB油

(※1) H20年度はペール缶7本、H21年度はペール缶1本、H25年度はペール缶3本、H27年度はドラム缶以外の容器26本を含む。その他はすべてドラム缶。

(2) 豊田PCB処理事業区域(東海4県1市)のPCB処理進捗について

JESCO登録実績に対する処理の完了状況を把握するため、中間処理の完了ベースで数を集計しています。

(表-2) JESCO登録実績 (試運転搬入物を含みます、他事業所に搬出した炭化コンデンサ9台及び車載トランス26台含みます。)

区域名称	事業場数	大型トランス 台数	小型トランス 台数	車載トランス 台数	コンデンサ 健全品 (炭化込)	コンデンサ 処理手間 物	小型機器 (10kg未 満)	PCB油 缶数	保管 容器数
豊田市	286	0	10	0	5,374	936	62	5	248
愛知県	4,166	193	570	2	18,749	1,695	675	358	533
岐阜県	1,511	24	141	0	4,227	837	295	23	155
静岡県	2,516	46	366	798	11,268	1,249	6,128	245	382
三重県	1,189	150	219	0	6,179	1,114	1,645	172	170
合計:	9,668	413	1,306	800	45,797	5,831	8,805	803	1,488

(表-3) 中間処理済台数

区域名称	事業場数	大型トランス 台数	小型トランス 台数	車載トランス 台数	コンデンサ 健全品 (炭化込)	コンデンサ 処理手間 物	小型機器 (10kg未 満)	PCB油 缶数	保管 容器数
豊田市	278	0	10	0	5,363	804	62	5	214
愛知県	3,784	172	528	0	17,805	669	243	231	176
岐阜県	1,339	21	113	0	3,718	176	14	5	60
静岡県	2,280	40	365	346	9,811	326	18	111	110
三重県	1,080	121	215	0	4,703	243	260	94	80
合計:	8,761	354	1,231	346	41,400	2,218	597	446	640

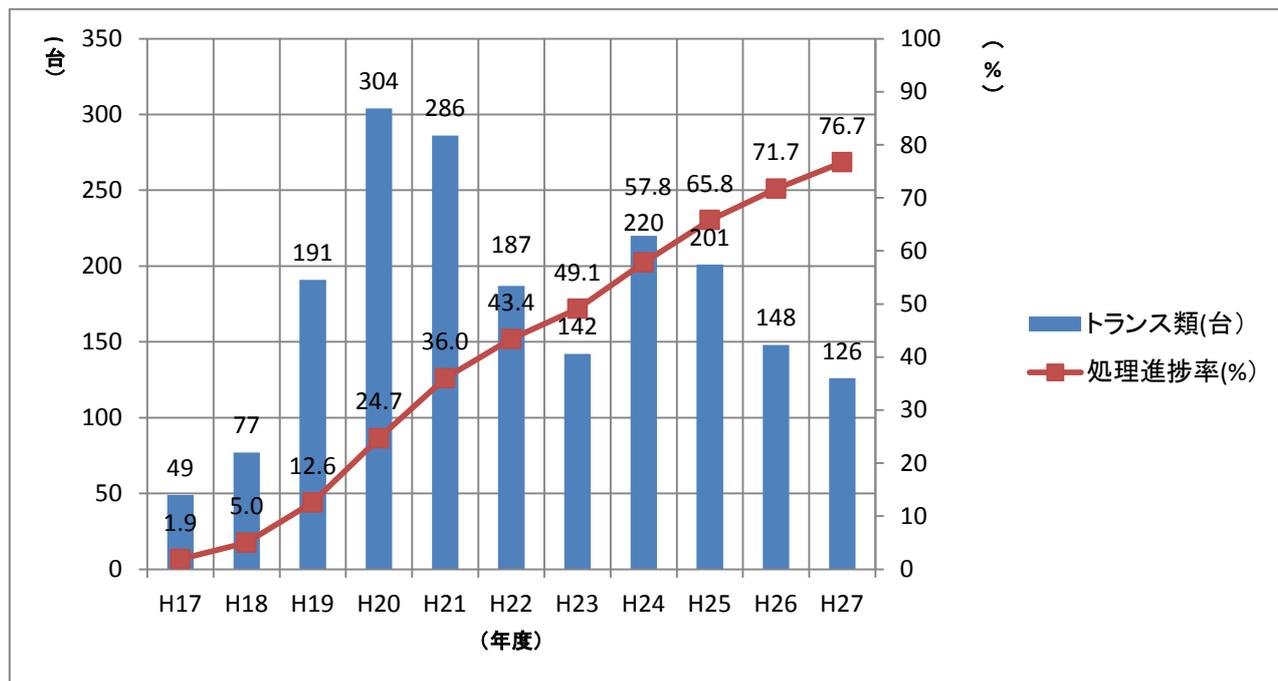
(表-4) 進捗率

区域名称	事業場数	大型トランス	小型トランス	車載トランス	コンデンサ 健全品 (炭化込)	コンデンサ 処理手間 物	小型機器 (10kg未 満)	PCB油	保管 容器
豊田市	97.2%	—	100.0%	—	99.8%	85.9%	100.0%	100.0%	86.3%
愛知県	90.8%	89.1%	92.6%	0.0%	95.0%	39.5%	36.0%	64.5%	33.0%
岐阜県	88.6%	87.5%	80.1%	—	88.0%	21.0%	4.7%	21.7%	38.7%
静岡県	90.6%	87.0%	99.7%	43.4%	87.1%	26.1%	0.3%	45.3%	28.8%
三重県	90.8%	80.7%	98.2%	—	76.1%	21.8%	15.8%	54.7%	47.1%
合計:	90.6%	85.7%	94.3%	43.3%	90.4%	38.0%	6.8%	55.5%	43.0%

(注)コンデンサの処理台数には、大阪エリアのPPコンデンサを含まない。

(グラフー1) 東海4県内のPCB廃棄物処理進捗状況(平成27年度末まで)

【トランス類】 中間処理完了ベース

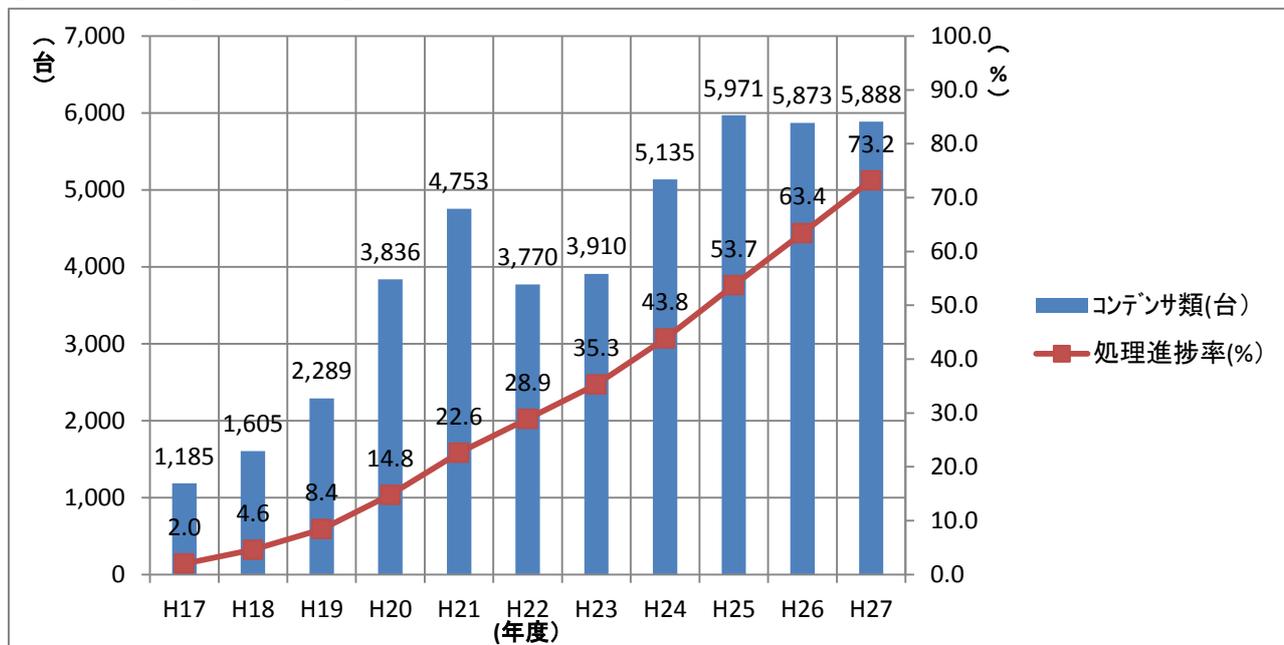


年度	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	合計
トランス類(台)	49	77	191	304	286	187	142	220	201	148	126	1,931
処理進捗率(%)	1.9	5.0	12.6	24.7	36.0	43.4	49.1	57.8	65.8	71.7	76.7	

※登録量(分母): H27年度末までの処理実績合計+JESCO登録未処理量=2,519台

※実績量及び未登録量には、地域間移動量(車載トランス)も含む。

【コンデンサ類】 中間処理完了ベース



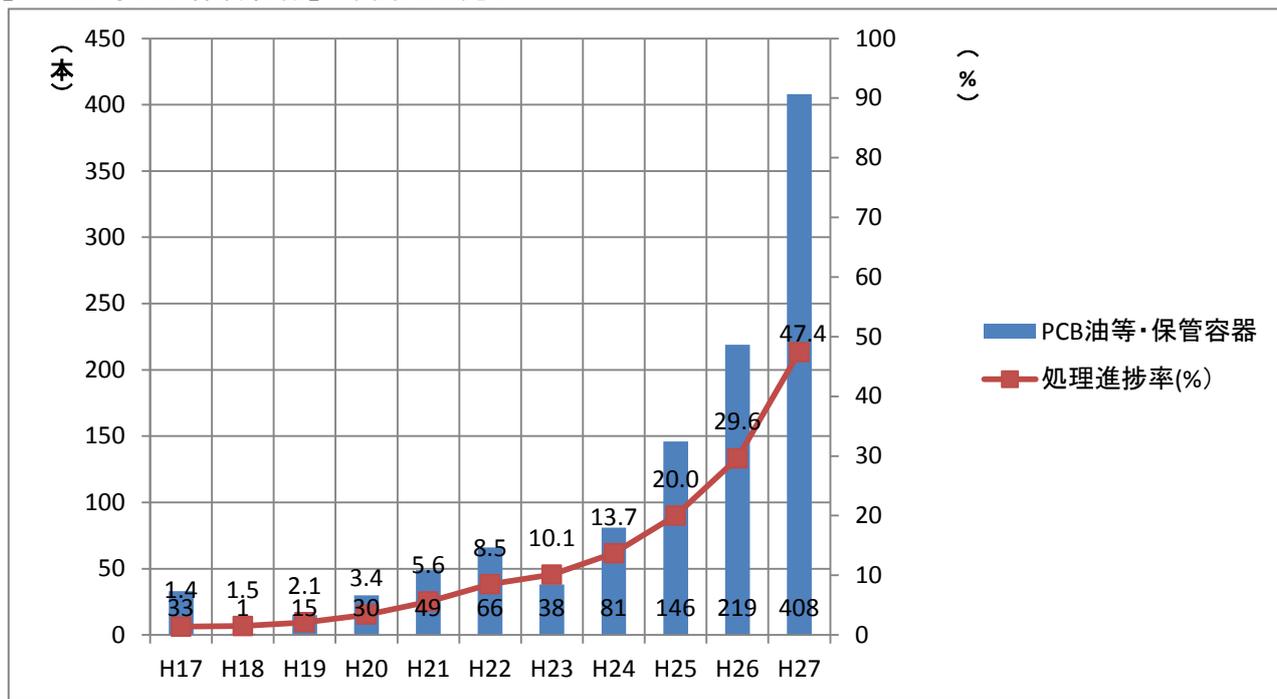
年度	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	合計
コンデンサ類(台)	1,185	1,605	2,289	3,836	4,753	3,770	3,910	5,135	5,971	5,873	5,888	44,215
処理進捗率(%)	2.0	4.6	8.4	14.8	22.6	28.9	35.3	43.8	53.7	63.4	73.2	

※登録量(分母): H27年度末までの処理実績合計+JESCO登録未処理量=60,433台

※実績量及び未登録量には、地域間移動量(炭化コンデンサ)も含む。

※大阪事業からのPPコンデンサは除く。

【PCB油等及び保管容器】 中間処理完了ベース



年度	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	合計
PCB油等・保管容器	33	1	15	30	49	66	38	81	146	219	408	1,086
処理進捗率(%)	1.4	1.5	2.1	3.4	5.6	8.5	10.1	13.7	20.0	29.6	47.4	

※登録量(分母): H27年度末までの処理実績合計+JESCO登録未処理量=2,291台

※PCB油類には、保管容器を含む。

2 東海 4 県内の PCB 廃棄物の今後の処理予測

東海 4 県内の PCB 廃棄物について、平成 28 年度当初の処理量予測及び年度別処理予測などを表 - 1 にまとめた。

平成 28 年度当初の処理量予測は、平成 28 年度当初において、まだ処理が完了していない PCB 廃棄物の残存予測量を示している。この量には掘起見込量などが含まれているため、正確に予測することは難しいことから毎年の掘起状況を踏まえ、見直しを行い情報を更新していく。

平成 27 年度末現在までに処理が完了した量と平成 28 年度当初の処理量予測を加えたものが、東海 4 県内の PCB 廃棄物の総量であるとして、PCB 廃棄物の種類ごとの年間処理見込数を考慮して、平成 28 年度以降の年度別処理予測を示した。(グラフー2 参照)

ただし、この予測は PCB 保管事業者などが JESCO への処理を順調に委託された場合であり、出し渋りなどにより、JESCO への処理委託が遅れた場合には、処理完了が今回の予測より遅れることが考えられる。

(表-1) 東海4県内のPCB廃棄物の処理状況と今後の処理予測について

平成28年3月31日現在

区分	平成27年度末 処理量実績 (試運転含む) (※1)	平成27年 度末まで の処理 進捗率 (※2)	年間 処理見込 数(※3)	平成28年度当初の処理量予測						年度別処理予測						
				JESCO 登録 未処理量 (※4)	特措法届 出・未登 録(※5)	電事法届 出・未登 録(※6)	地域間 移動量	掘起 見込量	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	H34年度	
大型トランス	354	85.7	30	59	59						18	18	18	5		
小型トランス	1,231	74.7	60	417	75	257	13		72	60	60	60	60	60	60	57
車載トランス	豊田	324	43.3	60	307	307				2,044	50	50	50	50	50	7
	【北九州・大阪・東京で処理】	22														
コンデンサ	健全品	41,391	75.9	6,000 (※7)	13,129	3,939	4,857	2,289		2,000	1,000	2,000	2,000	2,500	2,500	1,129
	健全品(炭化品)【大阪で処理】	9	1.9		0	458			-458	100	100	100	100	58		
	処理手間物	2,218	38.0		3,613	3,613					1,000	1,000	1,000	613		
	PPコンデンサ(大阪)(※8)	296	-		5,704	2,106			3,598	2,000	3,000	704				
	小型機器(10kg未満)	597	4.3		3,000	13,208	8,208				5,000	1,000	1,000	2,000	3,000	3,000
PCB油等	446	55.5	100	357	357					92	70	70	70	55		
保管容器	640	43.0	400	848	848					200	200	200	200	48		
安定器等・汚染物【北九州で処理】	75t	4.6	-	0t	1,567t				-1,567t	(※9)	268t	278t	300t	300t	300t	121t

【留意事項】

※1 処理実績は、事業管理システムから、中間処理完了ベースで記載。

※2 処理進捗率＝平成27年度末処理量実績×100÷(平成27年度末処理実績+平成28年度当初の処理量予測)

※3 過去の処理実績等から推計。

※4 JESCO登録未処理量は、H28年3月31日現在、JESCOに登録があるが、中間処理完了ベースで未完了の量を記載。

※5 特措法で届出されているが、JESCO未登録の量を記載。(平成28年6月10日現在)

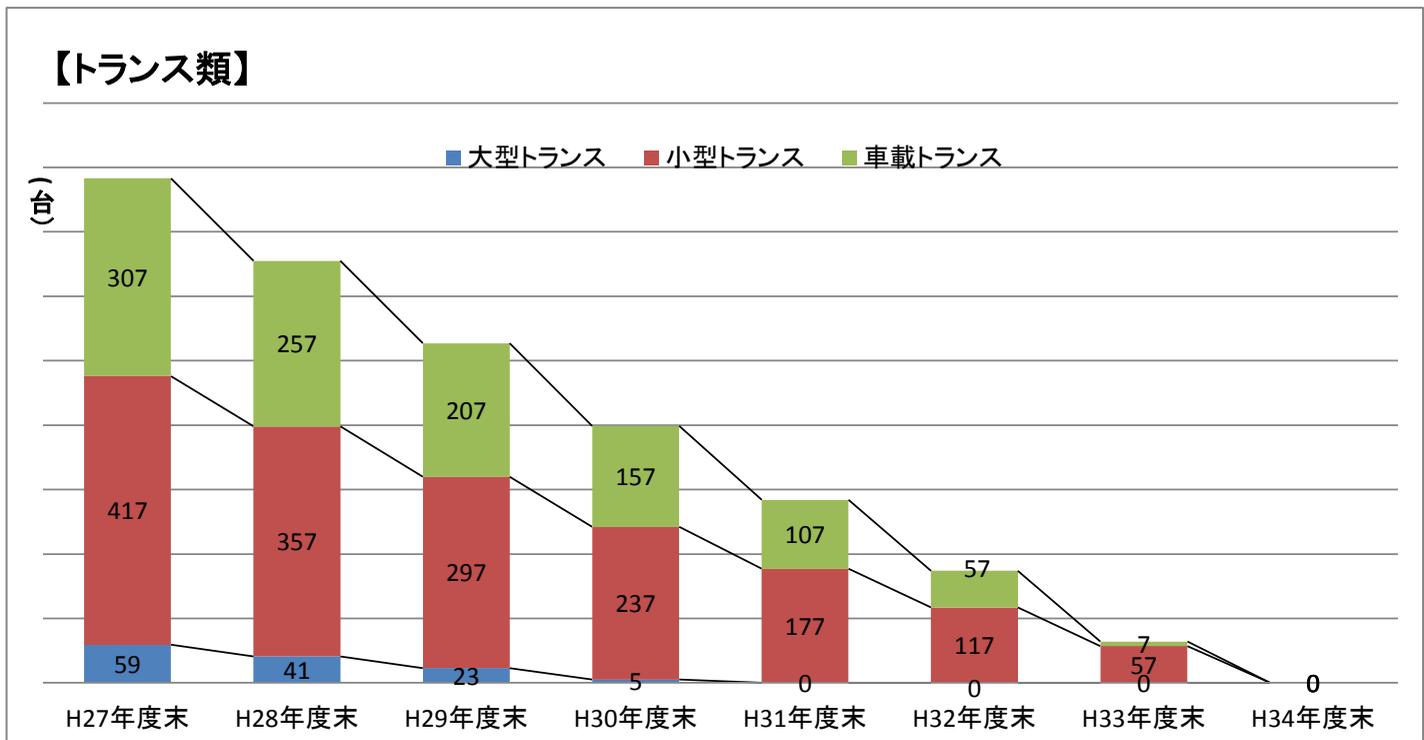
※6 電事法で届出されているが、JESCO未登録の量を記載。(平成28年6月10日現在)

※7 健全品コンデンサとPPコンデンサと処理手間物を加えた全体の処理見込数。

※8 大阪事業から地域間移動のPPコンデンサは、東海4県以外の登録量のため処理量実績から除外。

※9 現在掘起見込量の予測が十分できないため、空欄としている。

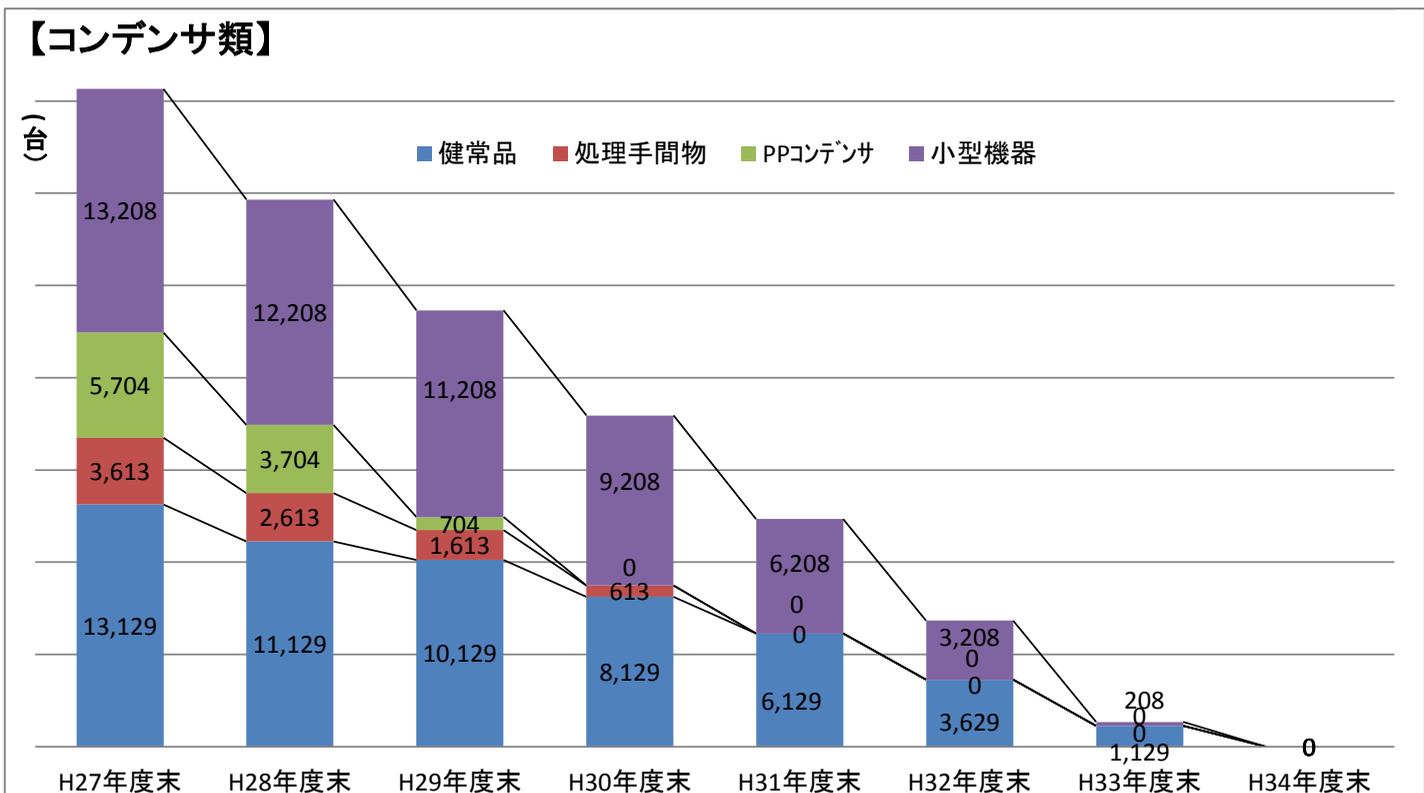
(グラフー2)平成28年度以降の東海4県PCB廃棄物の年度別処理予測



単位:台

	H27年度末	H28年度末	H29年度末	H30年度末	H31年度末	H32年度末	H33年度末	H34年度末
大型トランス	59	41	23	5	0	0	0	0
小型トランス	417	357	297	237	177	117	57	0
車載トランス	307	257	207	157	107	57	7	0

※車載トランスの地域間移動(北九州・大阪・東京)量147台は除く。

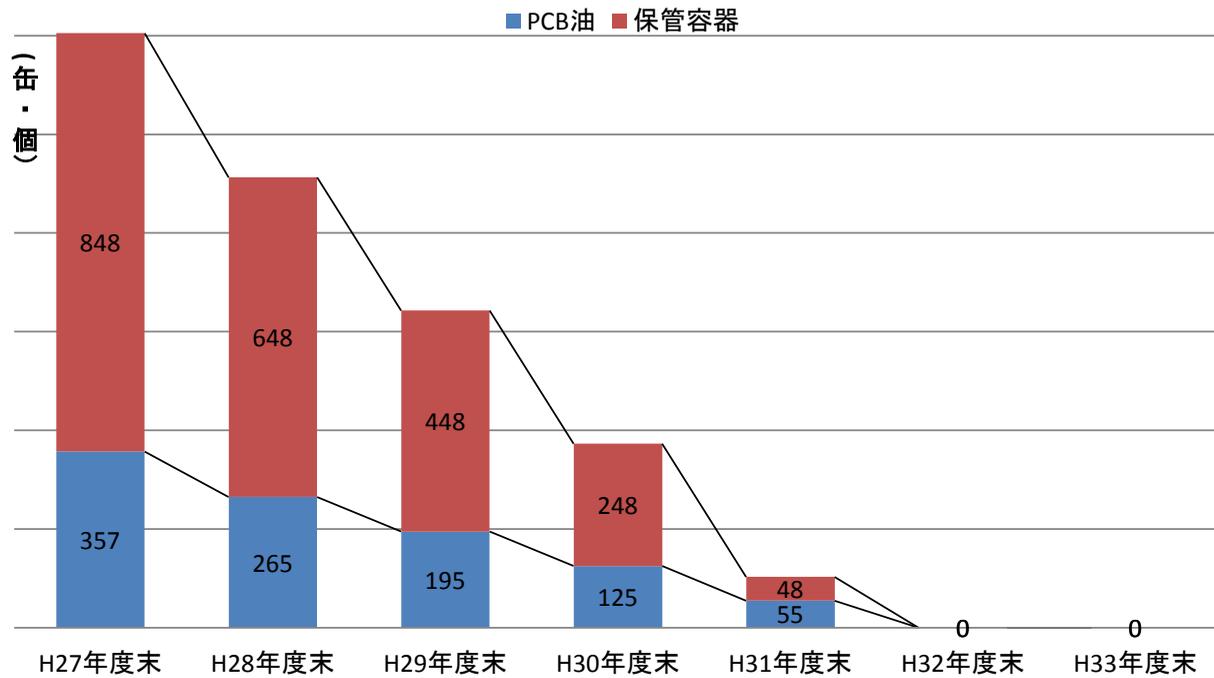


単位:台

	H27年度末	H28年度末	H29年度末	H30年度末	H31年度末	H32年度末	H33年度末	H34年度末
健全品	13,129	11,129	10,129	8,129	6,129	3,629	1,129	0
処理手間物	3,613	2,613	1,613	613	0	0	0	0
PPコンデンサ	5,704	3,704	704	0	0	0	0	0
小型機器	13,208	12,208	11,208	9,208	6,208	3,208	208	0

※炭化コンデンサは、458台全量地域間移動(大阪)のため除いています。

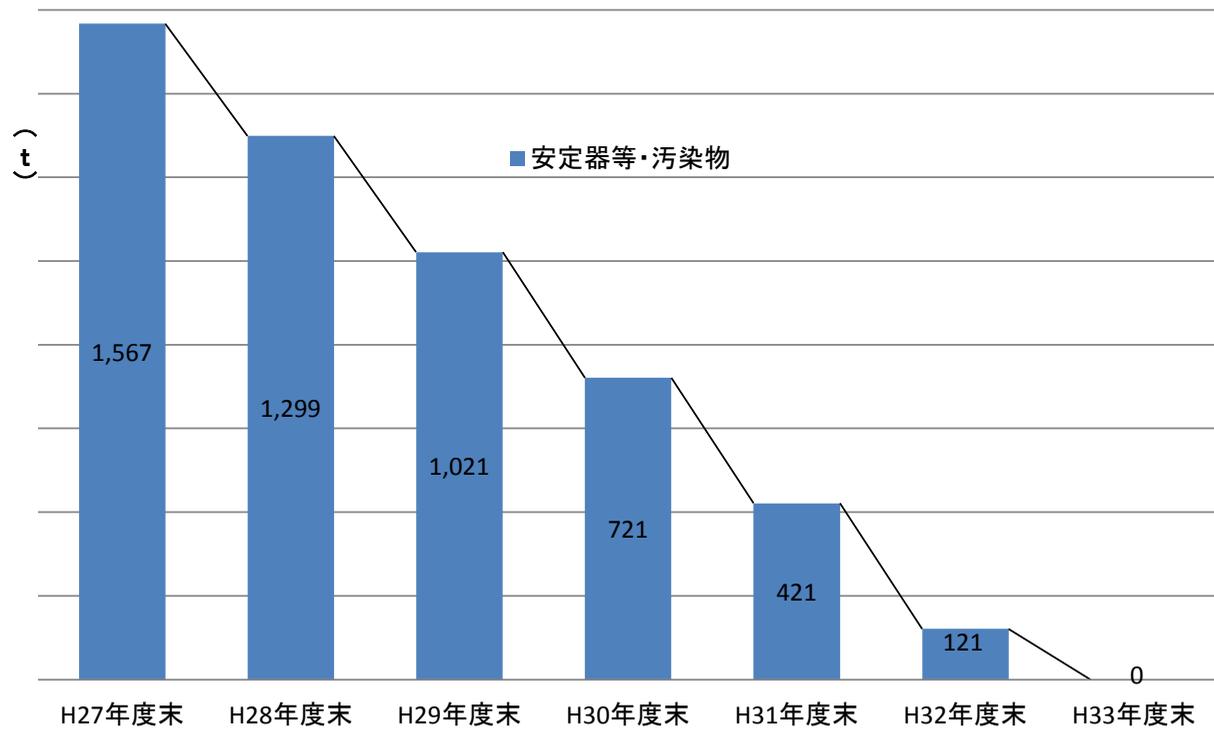
【PCB油・保管容器】



単位: 缶、個

	H27年度末	H28年度末	H29年度末	H30年度末	H31年度末	H32年度末	H33年度末
PCB油	357	265	195	125	55	0	0
保管容器	848	648	448	248	48	0	0

【安定器等・汚染物】



単位: t

	H27年度末	H28年度末	H29年度末	H30年度末	H31年度末	H32年度末	H33年度末
安定器等・汚染物	1,567	1,299	1,021	721	421	121	0

※安定器等・汚染物は、地域間異動により全量北九州PCB処理事業所で処理。

3 周辺環境への影響の状況

(表-1) 排出源モニタリング

操業開始から平成28年4月末現在

要素	調査項目	これまでの最大値 (カッコ内は測定年月)		平成27年～平成28年			管理目標値等	単位
				10月	1月	4月		
排気	PCB	1～4系	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.01	mg/m ³ N
		5系	0.001未満	0.001未満	0.001未満			
		6系	0.001未満	0.001未満	0.001未満			
	ダイオキシン類	1～4系	26(H18.10)	0.078	0.082	0.039	100	pg-TEQ/m ³ N
		5系	0.052(H18.9)	0.0013	0.0023	0.00074		
		6系	0.058(H18.10)	0.00019	0.000063	0.000096		
ベンゼン	1～4系	2.2(H22.10)	0.5未満	0.5未満	0.5未満	50	mg/m ³ N	
	3～2系	71(H19.1)	0.5未満	0.5未満	0.5未満			
排水 (放流口)	PCB	0.0005未満		0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	mg/L	
	ダイオキシン類	0.13(H19.2)		0.012	0.0084	0.016	5	pg-TEQ/L
	その他有害物質	未検出		—	—	—	規制基準の1/10	
騒音	騒音レベル	昼間	69(H19.1)	—	64～65	—	70	dB(A)
		夜間	68(H19.1)	—	64	—	65	
振動	振動レベル	昼間	49(H21.1)	—	42	—	70	dB
		夜間	48(H22.2)	—	38	—	65	
悪臭	アセトアルデヒド	0.039(H20.10)		0.003	—	—	0.05	ppm
	トルエン	0.9未満		0.9未満	—	—	10	ppm
	キシレン	0.1(H18.9)		0.1未満	—	—	1	ppm
	その他特定悪臭物質	未検出		—	—	—	規制基準(第1種地域)	

(注1) 豊田施設のPCB処理工程においては、工程排水は発生しません。

(注2) 排水の「その他有害物質」、悪臭の「その他特定悪臭物質」については、稼働後の年1回の測定で未検出であったため、その後の毎年の測定は行っていません。

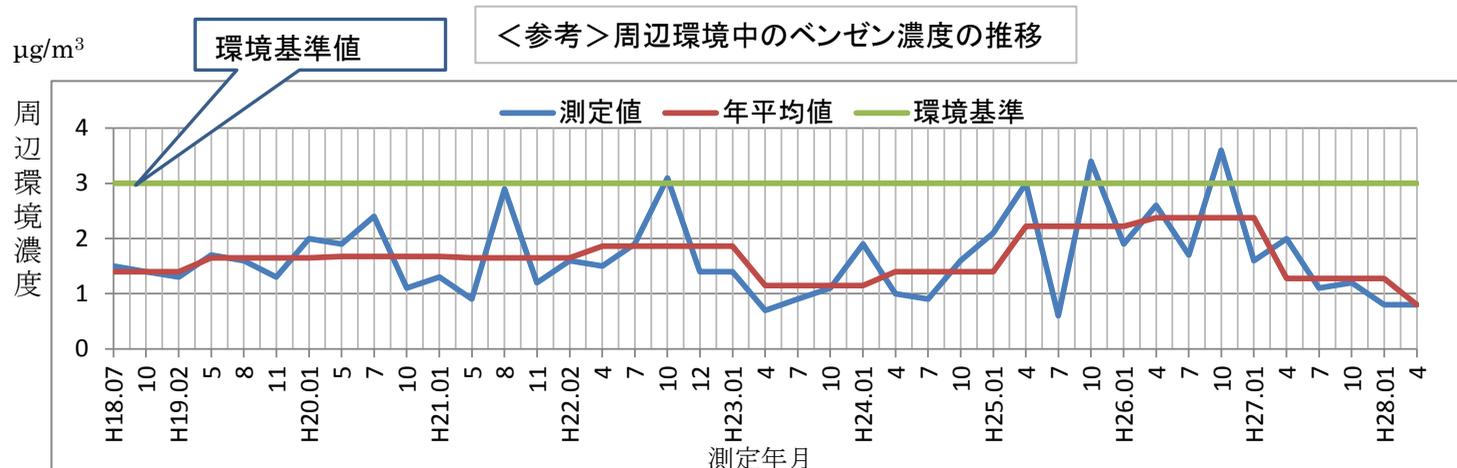
(表-2) 周辺環境モニタリング

操業開始から平成28年4月末現在

要素	調査項目	これまでの最大値 (カッコ内は測定年月)		平成27年～平成28年			環境基準値等	単位
				10月	1月	4月		
大気	PCB	0.0045(H27.7)		0.0005	0.00024	0.0033	年平均0.5 (注1)	μg/m ³
	ダイオキシン類	0.057(H20.1)		0.012	0.019	0.016	年平均0.6 (注2)	pg-TEQ/m ³
	ベンゼン	0.0036(H26.10)		0.0012	0.0008	0.0008	年平均 0.003(注2)	mg/m ³
土壌	PCB	0.0005未満		0.0005未満	—	—	検出されないこと(0.0005未満)	mg/L
	ダイオキシン類	1.5(H23.10)		1.0	—	—	1000	pg-TEQ/g
地下水	PCB	0.0005未満		0.0005未満	—	0.0005未満	検出されないこと(0.0005未満)	mg/L
	ダイオキシン類	0.075(H19.2)		0.044	—	0.04	1.0	pg-TEQ/L

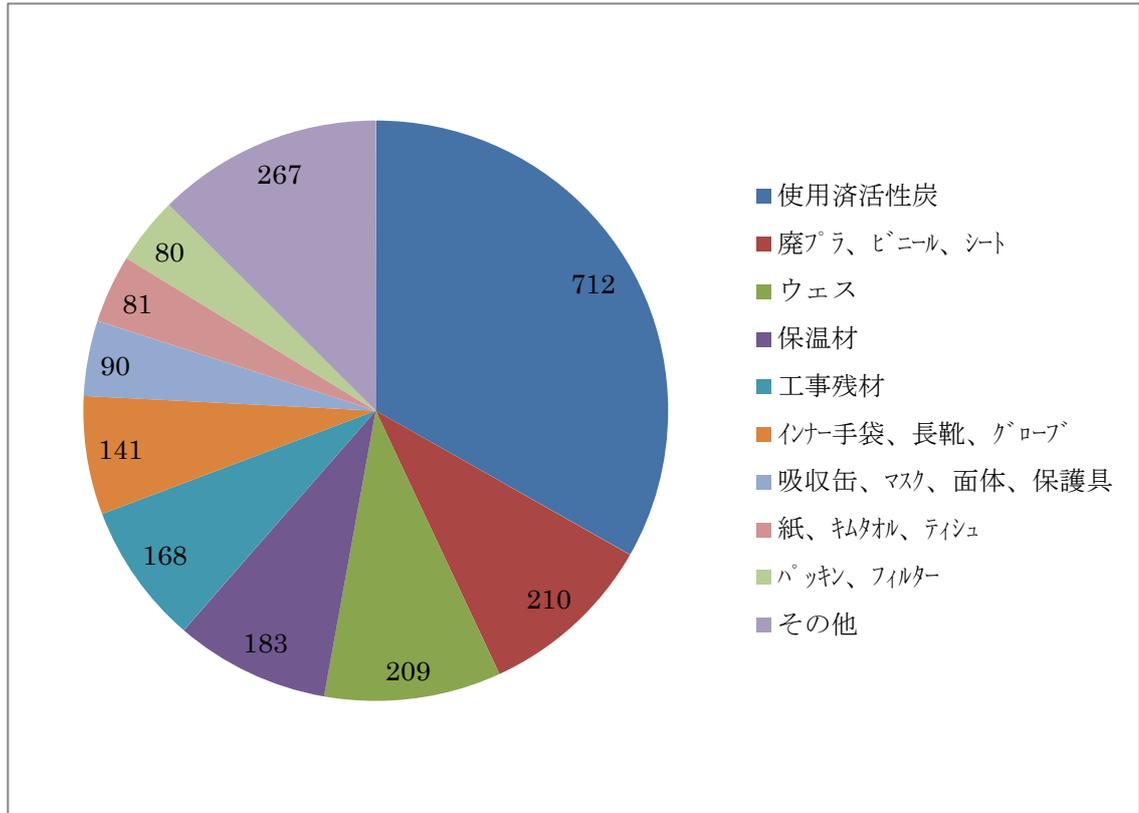
(注1) 評価基準値「PCB等を焼却処分する場合における排ガス中のPCBの暫定排出許容限界について」(昭和47年12月22日付 環境庁大気保全局長通達)で示される環境中のPCB濃度。

(注2) ダイオキシン類及びベンゼンの大気環境基準は、豊田施設の存在する工業専用地域には適用されません。



4 運転廃棄物の保管及び処理の状況

- ① 運転廃棄物入りドラム缶の保管状況（平成 28 年 3 月末）
合計 2,141 本（内訳は下図の通り）



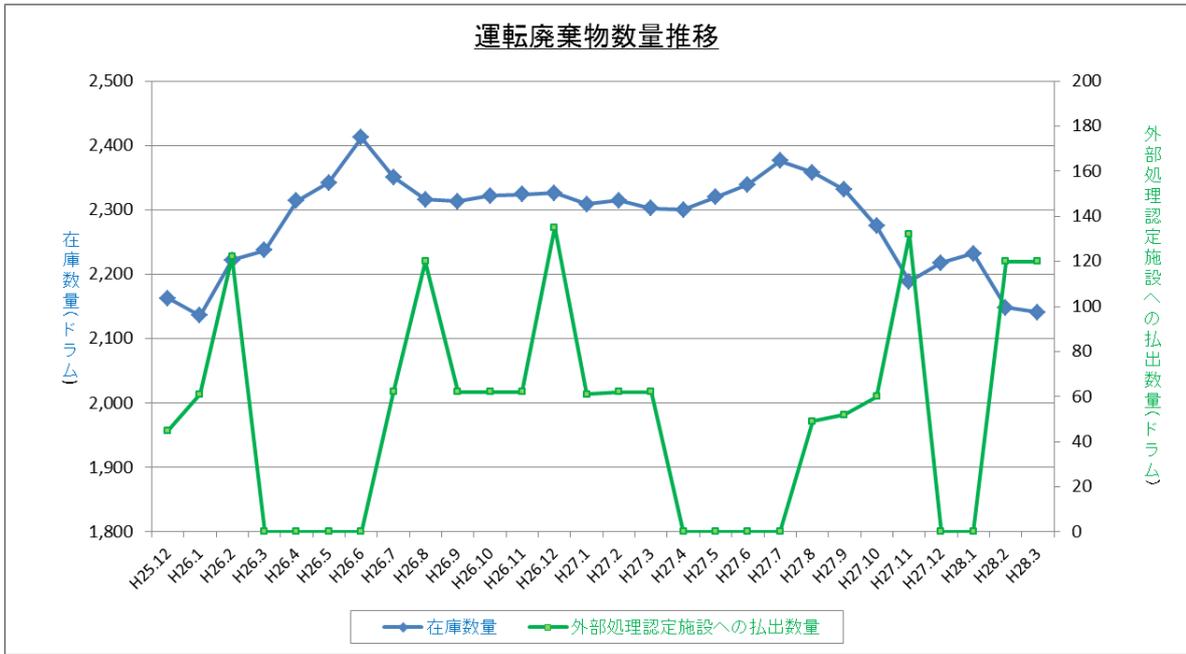
注：使用済活性炭入りのドラム缶については、上図の本数の内 312 本（使用済活性炭のみ）を外部倉庫に保管している。（平成 28 年 3 月に 96 本を外部倉庫から豊田事業所に搬入し処理中。）

- ② 運転廃棄物の所内処理及び外部処理の実績

年度	事業所内処理			北九州事業所処理委託 高濃度品 (注 1)	外部処理（ドラム缶数）	
	防護服	ポリ袋	廃油		実証試験	無害化認定業者処理委託(低濃度品(注 1))
H23 年度	14,400 着	640kg	2,643L	—	—	—
H24 年度	15,750 着	700kg	1,743L	—	108 本	—
H25 年度	18,000 着	549kg	373L	—	74 本 + 約 204 本相当	306 本 + 約 62 本相当
H26 年度	17,325 着	666kg	526L	—	0	550 本 + 約 153 本相当
H27 年度	18,000 着	684kg	1,212L	24 本	—	508 本

(注 1) 低濃度品：PCB 含有量 5,000mg/kg 以下、高濃度品：PCB 含有量 5,000mg/kg 超

運転廃棄物数量推移



5 真空超音波洗浄後の判定洗浄槽からの洗浄油の漏洩事故について

(1) 事故を起こした施設

コンデンサやトランスあるいは保管事業者様が PCB 汚染物を保管されていた容器（以下「保管容器」という。）の筐体に使われていた鉄や碍子などの非含浸物は、解体し小さくして洗浄カゴに入れ、表面に付着した PCB を取り除くため、床、壁、天井ともステンレスで囲われた遮蔽フード内にある真空超音波洗浄設備で洗浄します。漏洩事故はこの真空超音波洗浄設備の判定洗浄槽でおきました。

(2) 経緯

平成 28 年 6 月 20 日（月）午後 12 時 20 分、設備の見回り点検（1 日に 3 回実施）の際に、真空超音波洗浄設備の判定洗浄槽の下付近の床面に油が溜まっているのを発見しました。

漏洩した油は約 45 リットルあり、判定洗浄に用いた油で、0.022 mg/kg と法基準値（0.5mg/kg）以下の濃度の PCB しか含まれていないものでした。また、建物外部への漏洩油の流出はなく、排気についても PCB が排出されていないことを確認しております。

(3) 事故原因

洗浄カゴを持上げた際に液切れが良いように、あらかじめ洗浄物（今回は保管容器でした。）を切断したり十分な数の穴を開けたりしておくことが必要ですが、この時は、大きめの洗浄物の底面に穴（φ34mm）を 6 個開けただけで真空超音波洗浄設備に投入してしまいました。

判定洗浄槽では洗浄槽内に洗浄液が満たされた状態で洗浄カゴが取り出され、今回は液切れの悪い洗浄物が入った洗浄カゴが多く洗浄液をしたたかせながら次の槽に移動したため、液垂れを受けるためのオイルパンで受けきれずに床に漏洩したものです。

なお、判定洗浄槽以外の洗浄槽は洗浄液を排液してから洗浄カゴを取り出すため、こうしたことは起きませんでした。

(4) 再発防止対策

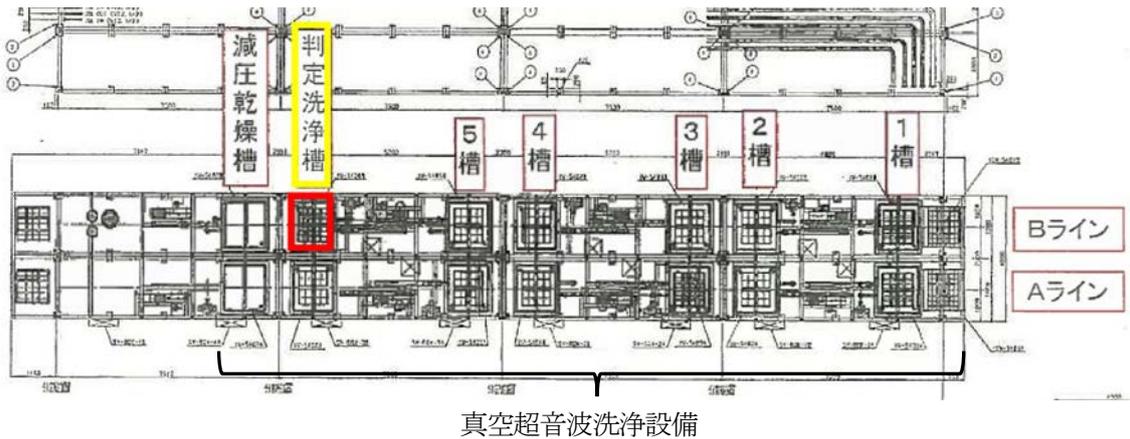
今後の洗浄物による漏洩を防ぐためのソフト面の対策として、切断作業員への手順書の見直しを行い、洗浄物を予め小さく切断することや穴あけの徹底、洗浄前の充填状態の確認、真空超音波洗浄工程の教育や体験を実施しました。

更にハード面として、洗浄カゴを取り出す際に、持ち上げスピードを遅くすることと判定洗浄槽の上で洗浄カゴを一旦停止し洗浄液を切ってから次に移動するなどの対策を実施しました。

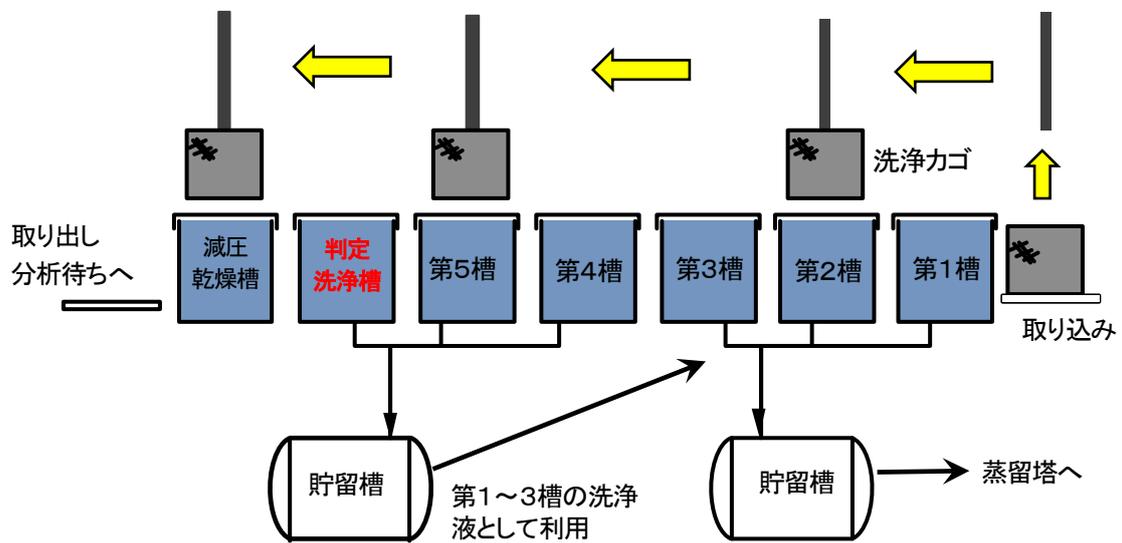
この再発防止対策につきましては、平成 28 年 7 月 1 日に豊田市様の立入検査で実施状況をご確認いただきました。

なお、保管容器は平成 26 年 1 月以降平成 28 年 5 月末までに 674 個の処理を行ってきましたが、今までこうした漏洩事故はおきていませんでした。

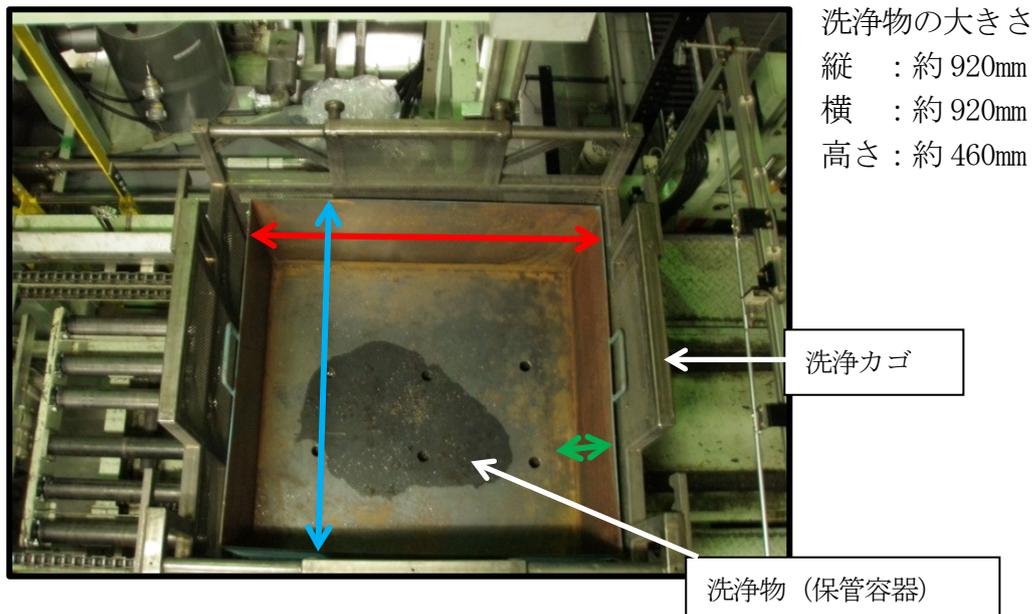
真空超音波洗浄設備と漏洩を起こした卒業判定槽



真空超音波洗浄設備のフロー



漏洩の原因となった洗浄物



6 収集運搬について

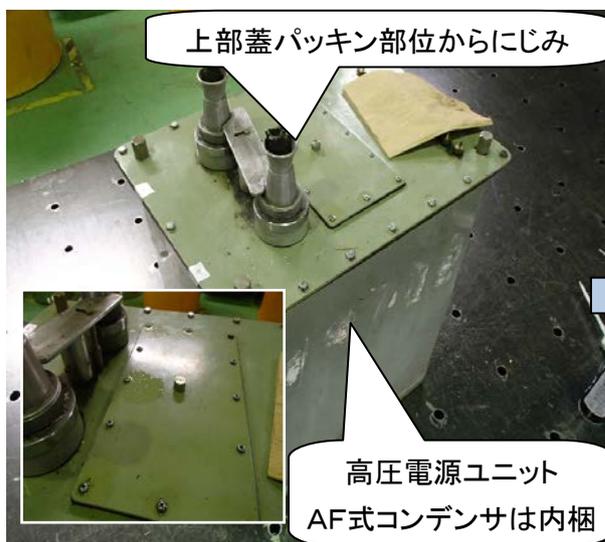
前回の監視委員会以降、平成 27 年度末までに発生した収集運搬及び保管時に伴うトラブルは以下の通りです。

(1) 収集運搬後の保管中の機器からの漏洩について

豊田 PCB 処理事業所に搬入後、保管中に保管庫内にて漏洩が確認された事例が 1 件ありました。

発 生 日	発 生 概 況	状 況
1 月 29 日	保管中漏洩	<p>受入エリア保管トレイ内で 1 月 28 日に受け入れたレントゲンコンデンサ（日本通運）1 台の漏洩を確認。</p> <p>レントゲンコンデンサは、外装容器の中に油が充填されており、その中に高圧電源ユニット（高濃度 PCB 油を使用）が内臓されている。</p> <p>外装容器の上部蓋パッキン部位からのにじみ程度の漏洩があり、外装容器内の充填油の分析が終了していないことから PCB 含有の可能性が否定できないと判断し、漏れ部分の補修を実施し優先投入。</p> <p>内臓している高圧電源ユニットは修理履歴なし。</p>

【漏洩状況】



【補修状況】



7 地域とのコミュニケーションについて

地域の皆様へは、弊社ホームページ、事業だより及び施設見学を通じて積極的に情報公開をしております。実績等は以下のとおりです。

(1) 見学関係について

①見学者の実績

	地域住民		行政関係		企業		その他		合計	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
26年度	1	14	11	37	41	104	3	62	56	217
27年度	2	20	17	128	42	103	6	139	67	390
28年度	0	0	4	27	5	13	1	39	10	79

※28年度は、平成28年5月31日現在

②見学会に関するアンケート集計結果(平成25年12月～平成28年5月まで、見学者683名)

質問1 説明は、わかりやすかったですか？ (回答682人)			
	② わかりやすかった	②普通	③わかりにくかった
	90% (616人)	10% (65人)	0% (1人)
質問2 説明者の対応はいかがでしたか？ (回答683人)			
	①良い	②普通	③良くない
	92% (625人)	8% (57人)	0% (1人)
質問3 本日の見学会は、参考になる内容でしたか？ (回答682人)			
	①参考になる	②わからない	③参考にならない
	94% (640人)	6% (41人)	0% (1人)

(2) 周辺自治区(19自治区)への情報提供

- 平成27年12月～平成28年2月上旬
年末・年始のごあいさつのため19自治区を訪問した。
- 平成28年5月
自治区長ごあいさつのため(PCB特別措置法改正の概要説明)19自治区を訪問した。

(3) JESCO地域協議会(平成25年度設置)

- 目的：周辺自治区への情報発信と情報交換を行い、リスクコミュニケーションの推進を図る。
- 構成：周辺19自治区のうち、事業所立地及び隣接の7自治区
【樹木自治区、三軒屋自治区、広久手町自治区、広久手自治区、本地新田自治区、深田山自治区、土橋自治区】
- 会議：平成28年8月下旬開催予定

(4) 豊田PCB廃棄物処理事業だよりの発行(毎月1回)

- 平成28年6月8日に通算146号を発行した。

8 PCB廃棄物の地域間移動への対応

(1) 豊田事業対象地域からの搬出実績 (12/1～3/31)

前回の監視委員会以降、平成27年度末までに、豊田事業対象地域から他事業所に搬出された実績は、大阪PCB処理事業所への車載型トランス4台と炭化コンデンサ50台、東京PCB処理事業所への車載型トランス2台、北九州PCB処理事業所への安定器等・汚染物18,937kgです。

受入事業所	対象機器	12/1～3/31 搬出実績	搬出実績 累計
北九州	車載型トランス	0台	14台
大阪	車載型トランス	4台	10台
東京	車載型トランス	2台	2台
大阪	炭化コンデンサ	50台	50台
北九州	安定器等・汚染物	18,937kg	107,167kg

(2) 豊田事業対象地域以外からの搬入実績 (12/1～3/31)

前回の監視委員会以降、平成27年度末までに、豊田事業対象地域以外から豊田PCB処理事業所に搬入された実績は、大阪PCB処理事業所からのポリプロピレン型コンデンサ（以下、「PPコンデンサ」という。）967台です。

搬出事業所	対象機器	12/1～3/31 搬入実績	搬入実績 累計
大阪	PPコンデンサ	967台	967台

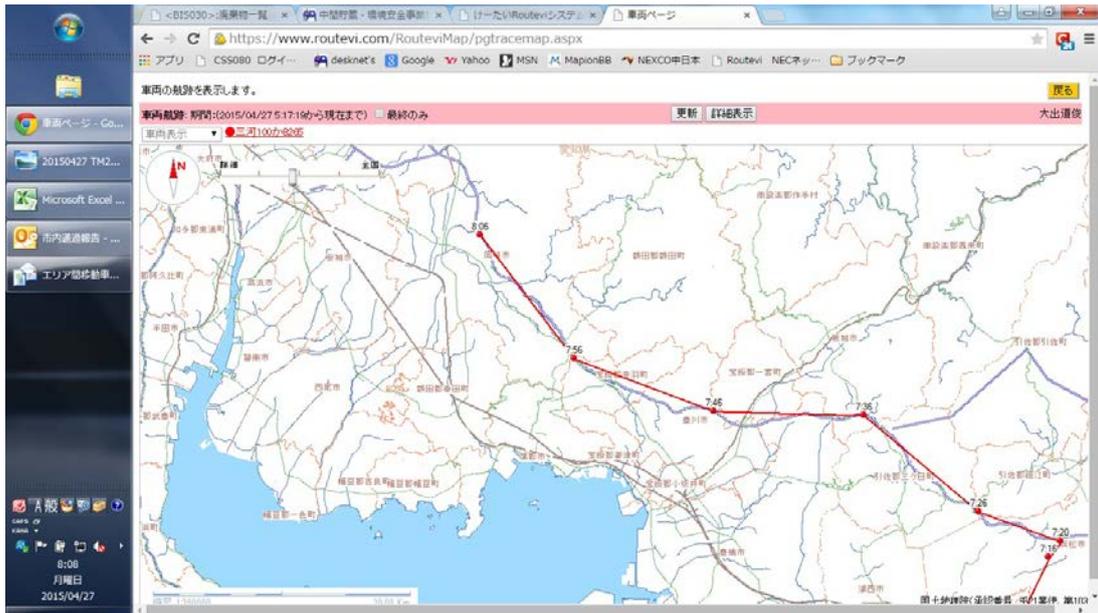
(3) GPSを用いた管理 (3/31時点)

JESCO各事業所の事業対象地域間移動を実施するにあたり、運行車両が豊田市内を通過する際にはGPS監視を行える体制を整えています。これまでの市内通過実績は以下のとおりです。

- ・東京事業対象地域⇒北九州PCB処理事業所（コンデンサ類）
- ・豊田事業対象地域⇒大阪PCB処理事業所（車載型トランス、炭化コンデンサ）
- ・豊田事業対象地域⇒北九州PCB処理事業所（車載型トランス、安定器等・汚染物）

搬出元地域	受入事業所	12/1～3/31 通過便数	通過便数 累計
東京事業対象地域	北九州	0便	38便
豊田事業対象地域	大阪	7便	10便
豊田事業対象地域	北九州	2便	14便

G P S 監視画面サンプル (4/27 豊田事業対象地域→大阪 豊田市内初回通過時)



9 中長期保全計画の取組状況

平成 27 年度の中長期保全計画の実施状況

点検・整備などを実施する対象機器数（636 機器）に対し、平成 27 年度に点検・部品交換などの実施を予定した項目数は 939 あった。

このうち、27 年度に実施した項目は 895（95%）あり、延期した項目は 44（5%）あった。また、新たに追加して実施した項目は 145 あった。

点検・整備などの対象機器数（636 機器）に対する平成 27 年度の実施状況

区 分	項目数	割合 (%)
平成 27 年度に実施を予定した項目数	939	100
予定項目のうち実施した項目数	895	95
予定項目のうち延期した項目数	44	5
予定項目のうち中止した項目数	0	0
予定項目以外に追加実施した項目数	145	—
平成 27 年度に実施した項目数の合計	1040	—

<延期した主な項目と延期した理由>

- 攪拌洗浄設備のケーシングカバー用 O リングは、点検の結果、劣化が確認されなかったため交換を延期。

ケーシングカバー用 O リングは計画では 12 個あり、4 個を交換、8 個を延期

交換 4 個：第 6,7,8,10 槽の攪拌層洗浄槽 4 個

延期 8 個：第 1～5 と 9,11,12 槽の攪拌層洗浄槽 8 個

- 副反応槽の圧力伝送器の校正は、点検の結果、運転上支障が発生するような誤差が生じていなかったため校正を延期。

圧力伝送器の校正は計画では 14 個あり、8 個は校正、6 個は延期

校正 8 個：溶剤除去塔、第 1 蒸留塔、第 1 TCB 除去塔、第 2 蒸留塔リボイラー、第 2 TCB 除去塔、第 2 溶剤回収塔、トランス油受槽、TCB 分離塔、の 8 か所で校正

延期 6 個：副反応槽 4 個、副後処理槽 1 個、水分回収槽 1 個

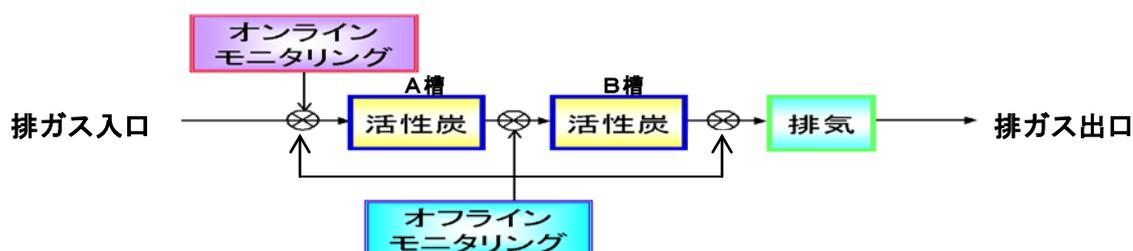
- 循環活性炭吸着槽等については、サンプリングによる分析の結果、活性炭の破過が進んでいなかったため交換時期を延期。

活性炭吸着槽は計画では、14 槽あり、10 槽は交換、4 槽は延期

交換 10 槽：P S A 窒素発生装置 A、P S A 窒素発生装置 B、P S A 窒素発生装置 C、第 1 活性炭吸着槽 A、第 3 活性炭吸着槽 A、第 3 活性炭吸着槽 B、第 3-2 活性炭吸着槽 A、第 3-2 活性炭吸着槽 B、第 3-3 活性炭吸着槽 A、第 3-3 活性炭吸着槽 B 10 槽

延期 4 槽：第 4 活性炭吸着槽 B、循環活性炭吸着槽、特コン解体、特コン局所排気 4 槽

第 4 活性炭吸着槽 A/B 槽 概略フロー図



- 大型コンデンサ素子洗浄槽用排液槽については、点検の結果、槽内スラッジが少なかったため回収を延期

スラッジ回収は計画では 3 件あり 3 件とも延期

延期 3 件：大型コンデンサ素子洗浄槽用排液槽 1 件、小型コンデンサ素子洗浄槽用排液槽 1 件、特殊コンデンサ用集液パン用排液槽 1 件

<追加実施した主な項目と実施した理由>

- 熱媒ボイラ A 号機の導圧管とヘッダー管は、点検の結果劣化が認められましたので交換および補修を実施。
- 真空超音波設備の真空ポンプは運転の状態に合わせて、ポンプの分解清掃、サイレンサー内部、前後配管の点検・清掃を実施。
8 件追加：第 1～5 洗浄槽真空ポンプ、判定洗浄槽真空ポンプ、減圧乾燥槽真空ポンプ A、減圧乾燥槽真空ポンプ B、以上 8 件
- 真空加熱装置の冷却ファン V ベルトは、点検の結果劣化が認められたので交換
4 件追加：第 1～4 真空加熱装置の冷却ファン V ベルト 4 件
- 第 1 活性炭吸着槽については、28 年度に交換することを予定していたが、サンプリングによる分析の結果、活性炭の破過が進んでいたため交換
1 件追加：第 1 活性炭吸着槽 B 1 件

